

平成23年度岡山県農林水産総合センター農業研究所試験研究課題評価票（概要）

<事前評価>

- 評価凡例 5：優先的に実施することが適当 4：実施することが適当
 3：計画等を改善して実施することが適当 2：実施の必要性が低い
 1：計画等を見直して再評価を受けることが必要

課題名	きぬむすめ、にこまるの高品質生産技術の確立と温暖化対応品種の選定						
課題の概要	「ヒノヒカリ」に代わる有望品種「きぬむすめ」、「にこまる」について、高品質・良食味米生産が可能となる技術を確立する。また、各地帯別に高温登熟耐性に優れる品種を選定する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	必要性	5人		1人			4.7
	有効性	3人	2人	1人			4.3
	効率性・妥当性	1人	4人	1人			4.0
	総合評価	4人	1人	1人			4.5
助言・指摘事項等	1. 異常高温による米の品質低下は、特にここ数年顕在化しており、早急な対策技術の普及が望まれる。 2. 有望品種の選定だけでなく肥培管理による高品質化も視野に入れるべきではないか。 3. 先行研究の成果も踏まえ、高温耐性の地域連絡試験も行っているかどうか。						

課題名	実験農場における水田農業の総合的実証試験						
課題の概要	個別経営では15 ha、組織経営では30 haの水田農業において、年間労働時間1,900時間、農業所得500万円を目標とした効率的な栽培体系と経営モデルを作成する。また、自給率向上などに必要な大規模な実証試験を行う。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	必要性		5人		1人		3.7
	有効性		3人	2人	1人		3.3
	効率性・妥当性		2人	3人	1人		3.2
	総合評価		3人	2人	1人		3.3
助言・指摘事項等	1. 疎植、緑肥利用、機械導入、不耕起直播、輪作などによる有機栽培、省力、低コストへの取り組みで、営農モデルの確立は重要な課題であり、成果が期待される。また、機械の共同利用等による経費削減に効果の実証的試験研究の実施を望む。 2. 米・麦だけでなく、水稻、麦類、大豆、野菜の水田輪作を基本とした営農を基本にすべきではないか。 3. 水田面積（30 ha）の組織経営で農業所得500万円の目標は、低すぎないか。農業所得500万円でも、確実に普及できる経営モデル提示することに主眼があるなら、それが明確に分かる研究計画書に修正する必要がある。						

課題名	モモのオリジナル新品種（岡山モモ5号）の高品質安定生産技術の確立						
課題の概要	農家経営の安定と県産ブランド推進を図るため、早生新品種「岡山モモ5号」の生産拡大と早生から晩生までのオリジナル品種のシリーズ化を目指した高品質・安定生産技術を確立する。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	必要性	4人	2人				4.7
	有効性	4人	2人				4.7
	効率性・妥当性	4人	2人				4.7
	総合評価	6人					5.0
助言・指摘事項等	<p>1. 岡山県育成品種で収穫期をずらし、労働需要のピークをずらすことが出来れば、農家の所得増加の可能性も拡大するし、桃栽培の適期作業時における過重な労働負担も回避できる。正に望まれている技術開発である。</p> <p>2. 6月末から岡山ブランドの食味のよい白桃が市場に出るのは楽しみである。岡山ブランドの桃シリーズの完成を望みたい。</p> <p>3. 核割れしない大果の生産技術も確立してほしい。</p>						

課題名	気象変動に対応した春季のモモの樹勢衰弱・枯死回避技術の確立						
課題の概要	近年、気象変動により早春の凍害が原因と考えられる枝幹障害が顕在化しており、開花後の急激な樹勢低下あるいは枯死被害が拡大傾向にある。特に、盛果期直前の3～4年生樹で発生が多く、生産意欲の低下等、深刻な問題である。 そこで、凍害回避策及び耐凍性台木を利用した総合的な対策技術を確立する。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	必要性	3人	3人				4.5
	有効性	3人	2人	1人			4.3
	効率性・妥当性	1人	4人	1人			4.0
	総合評価	2人	4人				4.3
助言・指摘事項等	<p>1. 近年の異常気象によるモモの樹勢衰弱・枝幹の枯死の原因解明と対策は、重要で解決を急ぐ課題である。台木や資材の効果を実証する試験であり、成果が上がる可能性は高い。石灰乳以外の資材も検討した方が良い。</p> <p>2. 開発した台木を確保するシステムの構築も研究計画に盛り込んだ方が良い。</p>						

課題名	夏季の異常高温に対応したブドウの果実障害防止技術の開発						
課題の概要	夏季の異常高温の影響と考えられる果肉軟化、果房の萎凋等の果実障害が増加傾向にある。このため、夏季～秋季に成熟するトンネル・無加温栽培における果実障害の発生原因を明らかにし、防止技術を確立する。						
評価結果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均点
	必要性	3 人	3 人				4 . 5
	有効性	2 人	4 人				4 . 3
	効率性・妥当性	2 人	4 人				4 . 3
	総合評価	2 人	4 人				4 . 3
助言・指摘事項等	1. 気候温暖化の傾向は続くと言われている。高温下で果実生育を阻害する原因を明らかにして、防止技術を確立し、普及させることは喫緊の重要課題である。また、コスト面も検討が必要である。						

課題名	ブドウ安定生産のための施肥方法と土壌改良方法の改善						
課題の概要	高品質な果実を安定生産するために、樹の生育と果実の成熟に合わせて、効率的に肥料成分を吸収させるための肥料の分施肥技術の確立を目指す。						
評価結果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均点
	必要性	3 人	3 人				4 . 5
	有効性	3 人	2 人	1 人			4 . 3
	効率性・妥当性	2 人	4 人				4 . 3
	総合評価	2 人	4 人				4 . 3
助言・指摘事項等	1. 岡山県の主要果樹であるピオーネの高品質化・安定生産のため、主要産地での土壌実態を把握するとともに、樹齢、土性、気象を総合的に解析して、樹勢低下を防ぎ高品質で多収となる施肥法を確立することは重要かつ適切な研究課題である。 2. 検討すべき要因が多いことが気になる。農家を取り組みやすい施肥法の確立を望む。						

課題名	夏秋雨除けトマト栽培における高温・強日射に起因する裂果対策						
課題の概要	夏秋トマトにおける高温・強日射条件が関係するといわれている裂果の発生要因の洗い出しと、その対策技術を確立し、普及性のある技術開発により地域のトマト産地の活性化を図る。						
評価結果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均点
	必要性	3 人	3 人				4 . 5
	有効性	2 人	3 人	1 人			4 . 2
	効率性・妥当性	2 人	3 人	1 人			4 . 2
	総合評価	3 人	2 人	1 人			4 . 3
助言・指摘事項等	<p>1. 異常気象に対応した研究で新規課題として適切である。優良品種の選定は重要である。早急な完成を期待する。</p> <p>2. 高温、強日射以外の要因も検討してはどうか。果実の成長速度だけで原因究明は可能か。また、遮光処理が果実の生育や品質に影響しないか。</p>						

課題名	岡山県の気候に適したオリジナルリンドウの新品種育成による連続出荷体系の確立と栽培技術の改善						
課題の概要	これまで継続的にオリジナルリンドウの育種を行ってきており、盆出しと彼岸出し品種を普及に移した。来年度からは10月以後に開花する晩生品種の育成を行うなど、開花期の異なるオリジナルリンドウの品種育成を行うことで連続出荷体系を確立し、岡山県のリンドウの生産額を西日本一の産地とする。						
評価結果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均点
	必要性	5 人	1 人				4 . 8
	有効性	5 人		1 人			4 . 7
	効率性・妥当性	3 人	2 人	1 人			4 . 3
	総合評価	5 人	1 人				4 . 8
助言・指摘事項等	<p>1. 地域適応性の高い「オリジナルリンドウ」の連続出荷は農家の所得増加に繋がる有意義な研究で、早急な技術確立と栽培面積の拡大につながる研究成果を望む。</p> <p>2. 連作障害の回避のために、県北の樹皮を利用するのはグッド・アイディアである。</p>						

平成23年岡山県農林水産総合センター農業研究所試験研究課題評価票（概要）

< 中間評価 >

総合評価凡例 5：優先的に継続することが適当 4：継続することが適当
 3：計画変更して継続することが適当 2：継続の必要性が低い
 1：中止すべきである

課題名	有機栽培における持続的な土壌管理技術の確立						
課題及び経過の概要	<p>有機野菜栽培において、養分集積が起こっている圃場での土壌管理対策と、養分集積が起こらない施肥方法の確立を目指す。</p> <p><経過></p> <p>(1) 有機質資材の成分と窒素無機化特性の現地で実態を解明した。</p> <p>(2) 土壌ECが上昇し葉菜類の発芽障害や生育不良が発生したハウス野菜圃場では、点滴灌水が発芽不良の改善に有効なことが示唆された。また、養分過剰となった露地野菜圃場で堆肥施用を中止すると、カリウムが著しく減少することが分かった。</p> <p>(3) ハウス野菜栽培前の土壌養分量を考慮した有機質肥料や有機液肥の施用は、土壌養分量が適正に維持される傾向があった。</p> <p>(4) 有機水稻の育苗に鶏ふんが利用できる可能性が見出せた。</p>						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成可能性		4人	2人			3.7
	目標達成可能性(阻害要因)		4人	2人			3.7
	必要性		5人	1人			3.8
	有効性		4人	2人			3.7
	効率性・妥当性		5人	1人			3.8
	総合評価		6人				4.0
助言・指摘事項等	<p>1. 高品質化やブランド化を目指した有機栽培の確立は重要である。有機栽培を継続した時の養分過剰障害の原因を調べ、その対策の実行で、養分バランスのよい土壌に改善し、収量を向上させたことは評価に値する。過肥でECが上昇した土壌の改善法も開発しており、研究の継続実施が妥当と考えられる。</p> <p>2. 堆肥施用を中止した圃場でカリ不足が発生する研究成果や鶏ふん堆肥の水稻育苗への利用に関する研究成果を論文として公表されたい。</p>						

平成23年岡山県農林水産総合センター農業研究所試験研究課題評価票（概要）

<事後評価>

総合評価凡例 5：著しい成果が得られた 4：十分な成果が得られた
 3：一定の成果が得られた 2：見込んだ成果を下回った
 1：成果が得られなかった

課題名	コンバイン収穫に対応した黒大豆の高品質・省力栽培技術の確立						
課題及び成果の概要	<p>コンバイン収穫に対応し、高品質、大粒が維持できる黒大豆の省力機械化栽培技術を確立し、産地の維持、発展に資する。</p> <p><成果の概要></p> <p>黒大豆のコンバイン収穫における問題点を抽出するとともに、収穫ロスを少なくできる播種時期・栽植密度を明らかにした。また、異なる播種時期・栽植密度で灌水と施肥が大粒収量、大粒率に及ぼす影響を調査した。収穫方法については、汚損粒を回避できる茎・子実水分と、その判定の目安を明らかにできたので、目標は概ね達成した。</p>						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度		3人	3人			3.5
	有効性（効果）		3人	3人			3.5
	有効性（目的以外の成果）	1人	4人	1人			4.0
	効率性・妥当性（費用対効果）	1人	3人	2人			3.8
	効率性・妥当性（計画）		2人	4人			3.3
	成果の活用・発展性	1人	4人	1人			4.0
	総合評価	1人	4人	1人			4.0
助言・指摘事項等	<p>1. コンバイン収穫に適した播種方法を確立したことと、収穫時期を茎水分で判定する簡便法を見つけたことは意義深い。また、子実の変形要因の一つである扁平粒や奇形粒の原因を明らかにした点は大きな成果である。高品質化のためには子実の変形を低減する技術の確立を今後は望む。</p> <p>2. 優れた研究成果である。論文でも公表して欲しい。</p>						

課題名	集落営農の類型化と育成手法の解明						
課題及び成果の概要	<p>地理的条件や営農条件等から集落を類型化するとともに、その類型で展開されている既存の集落営農の特徴を整理することにより、新たな育成対象集落の選定とその集落に適した集落営農の育成手法を解明し、効果的な集落営農の育成に役立てる。</p> <p><成果の概要></p> <p>農林業センサスデータを基に、主成分分析、クラスター分析により県内のセンサス集落を6類型に分類し、各集落の特徴、地理的分布等を明らかにした。また、この内、集落営農が実施されている5類型について既設の営農組織への調査を行い、各類型における集落営農の課題や、類型に適した育成方策を整理したので、目標はほぼ達成した。</p>						
評価結果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均点
	目標達成度		4 人	2 人			3.7
	有効性（効果）	2 人	3 人	1 人			4.2
	有効性（目的以外の成果）	2 人	3 人	1 人			4.2
	効率性・妥当性（費用対効果）	1 人	3 人	2 人			3.8
	効率性・妥当性（計画）	1 人	3 人	2 人			3.8
	成果の活用・発展性	2 人	3 人		1 人		4.0
	総合評価	3 人	2 人	1 人			4.3
助言・指摘事項等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 私達の地域を私達を守るための集落営農組織作りを早急に促進して欲しい。このための方策についての提案が必要である。 2. 集落営農を6つに類型化し、類型ごとの特徴とそれに適した営農の提案、経済的効果の試算を提示できたことは意義深い。 3. 集落営農設立時において、集落営農への参加を検討している農家に対して、参加による経営状況をシミュレーションにより事前に提示できれば、参加の意思決定に大きな影響力を持つ。エクセルや線形計画法によるシミュレーション手法の確立は大変評価できる。ツールの利用拡大を図ってほしい。こうした手法は、全国的にも先進事例となる。 						

課題名	ナス栽培におけるミツバチの長期利用技術の開発						
課題及び成果の概要	<p>結実管理コストを削減し高品質な促成ナスを生産する技術確立する。</p> <p><成果の概要></p> <p>冬期のナス促成栽培の着果処理にミツバチを利用し、ナスの正常果収量を維持する技術を確立し、ほぼ目的を達成した。</p>						
評価結果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均点
	目標達成度		3 人	3 人			3.5
	有効性（効果）		4 人	2 人			3.7
	有効性（目的以外の成果）		1 人	5 人			3.2
	効率性・妥当性（費用対効果）		4 人	2 人			3.7
	効率性・妥当性（計画）		3 人	3 人			3.5
	成果の活用・発展性		4 人	2 人			3.7
	総合評価	1 人	3 人	2 人			3.8
助言・指摘事項等	<p>1. ナス促成栽培における省エネと着果に関わる労働コストの削減の技術として、空気膜フィルムとミツバチの利用とを研究期間内に確立させた点は評価できる。開発した技術を、普及などとの協力により、出来るだけ早く、現場で利用可能な状況にして欲しい。</p>						

課題名	イチゴ冷蔵庫内連続低温育苗法の開発による低コスト超促成作型の確立						
課題及び成果の概要	<p>夜冷装置に比べて大幅に低コスト化でき、イチゴを10月から連続して出荷可能な冷蔵庫内育苗低温処理技術を開発する。</p> <p><成果の概要></p> <p>イチゴ超促成栽培において冷蔵庫内低温育苗条件を検討し、慣行栽培よりも1か月半早くから連続して収穫を開始できる技術を確立し、ほぼ目的を達成した。</p>						
評価結果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均点
	目標達成度		2 人	4 人			3.3
	有効性（効果）		3 人	3 人			3.5
	有効性（目的以外の成果）		2 人	4 人			3.3
	効率性・妥当性（費用対効果）		1 人	4 人	1 人		3.0
	効率性・妥当性（計画）		4 人	2 人			3.7
	成果の活用・発展性	1 人	2 人	3 人			3.7
	総合評価		4 人	2 人			3.7
助言・指摘事項等	<p>1. 10月から出荷できるイチゴの超促成栽培方法を確立したことは意義深く、十分な成果が得られたものと評価できる。</p> <p>2. 装置のコストが高いこと等、この普及の障害となる資材費の低減技術の開発が望まれる。</p> <p>3. 得られた新しい成果についてさらにメカニズムの検討を期待する。</p>						

課題名	ブランド化を目指した特産花きの品種選抜と栽培法の改善						
課題及び成果の概要	<p>岡山県の特産的花き品目ブルーレースフラワー、花トウガラシ、クレマチスの栽培技術を確立、新系統育成を行う。</p> <p><成果の概要></p> <p>ブルーレースフラワー、花トウガラシについては、有望系統を選抜した。クレマチスについては、剪定方法によるつる下げ作業省力化の可能性を認めた。</p>						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度		4人	2人			3.7
	有効性（効果）		5人	1人			3.8
	有効性（目的以外の成果）		6人				4.0
	効率性・妥当性（費用対効果）		3人	3人			3.5
	効率性・妥当性（計画）		5人	1人			3.8
	成果の活用・発展性		5人	1人			3.8
	総合評価		5人	1人			3.8
助言・指摘事項等	<p>1. 研究期間内にブルーレースフラワーと花トウガラシの有望品種を選抜できたことと、クレマチスの仕立て方を提案できており、概ね妥当な成果と評価できる。</p> <p>2. ブランド化に繋がって行くかどうかポイントであり、連携研究も含めて明らかにすべき課題である。</p>						

課題名	黒大豆の高品質・安定生産のための土壌・施肥管理技術の確立						
課題及び成果の概要	<p>黒大豆においては、生産安定や高品質化のための土壌管理法を適正化する技術の開発を目指す。</p> <p><成果の概要></p> <p>黒大豆産地の土壌実態調査から、黒大豆の収量が低下する土壌的要因を明らかにし、その改善に向けて窒素肥沃度を維持するための連作可能年数、窒素肥沃度が低下した圃場での効果的な施肥方法を明らかにした。成果は現地で普及しつつあり、目標は達成した。</p>						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度		5人	1人			3.8
	有効性（効果）	1人	4人	1人			4.0
	有効性（目的以外の成果）	1人	4人	1人			4.0
	効率性・妥当性（費用対効果）		4人	2人			3.7
	効率性・妥当性（計画）		4人	2人			3.7
	成果の活用・発展性	1人	4人	1人			4.0
	総合評価	1人	5人				4.2
助言・指摘事項等	<p>1. 産地の土壌調査から、各土壌に適合した施肥管理や作付け回数を提案できたことは意義深い。特に、マグネシウムの効果が優れていることを見出した点は重要である。</p> <p>2. 既に、この技術は普及段階であり成果は評価できる。開発された技術が、地域間における堆肥利用促進と連動するようなシステムと並行して普及できると、より望ましい。</p>						